

(二) 美しいことば

成瀬 政男

ベルリン大学

一八〇九年に

ロイセン国王

フリードリッヒ

ウィルヘルム三

世によって設

された大学。現

在、フンボルト

大学。

カイゼル

ここではドイツ

皇帝ウィルヘル

ム二世(一九一

九年)のこと。カ

イゼルは、ドイ

ツ皇帝の称号。

せつかくドイツに來たのであるから、専門の研究のほかに、ドイツ語も習いたいと思って、わたしはその勉強に取りかかった。

そのころベルリン大学に、ドイツ語研究所というところがあった。わたしはここへ通ったほかに、また、家庭教師もとって勉強をさせた。家庭教師の名まえをブロック夫人という。もう七十歳に届く年であつたけれども、なかなか元氣な老婦人であつた。若い時は女優であつたとのことで、カイゼルの前でも芝居をしたこともあるし、また、一座を組んで、アメリカまで行ったこともあるとのことである。今はラジオの声優を業としてゐる。

初対面の時にブロック夫人は言う。ドイツに來てドイツ語を習うからには、正しいドイツ語はもちろんであるが、それとともに、ぜひ美しいドイツ語を学んでほしい。美しいドイツ語は、今は俳優と声優とが受け継いでゐる。教養のある家庭の人々は、皆この美しいドイツ語を學んでいる。外国人ではさぞ苦しいではあるうが、どうぞ、わたしのこのことばを、意

10

りなく學んでくれるように、そして、ベルリンのある一部の人々の話すような、あのきたない方言だけは、けつしてまねないようにしてくれと、こんなことを語る。わたしは、ベルリンの人々の話すことばがきたない方言だというブロック夫人の話を、むしろ不思議にさえ思つた。

ブロック夫人の教授は熱心であつた。それだけにまた、厳格でもあつた。いい発音ができな

5

い時には、それができるまで、何度もくりかえさせるのである。

特にわたしのいちばん苦勞し、また、いちばん多くの時をかけたものは、rの発音であつた。何度ブロック夫人から教わつても、わたしにはrの発音ができてこない。とうとう最後には、ブロック夫人は台所から水を入れたコップを持って來た。この水を自分の口にも含み、また、わたしの口にも含ませる。そして、この水でうがいをし、わたしにもさせる。うがいをする時の舌の根元の振動、この振動で出る音がrであると言う。この発音は、今すぐで

10

きるものではない、家へ行って怠らず練習を積むようにと、夫人は言う。

家へ帰つてから、わたしは、言われたとおりに練習してみた。なるほど、水を口に含んでうがいをすると、舌の根元が振動してくる。しかしこの振動は、水をたくさん口に含んだ時には出て來るけれども、水の分量が少ないと出ては來ない。そこでわたしはくふうをした。含む水の分量を、毎日、少しずつ減らしていく。減らしていつても、舌の根元が振動するよ

15

うに練習する。これが続けていって、とうとうしまいには、たとえ、口に含む水の分量が少なくて、舌の根元が振動するようにする。終わりには、含む水がまったくなくても、根元の振動が自由にできるところまでこぎつけた。

ブロック夫人の前で、この舌の振動をしてみせた。夫人は、それがほんとの美しいものの発音であると言う。よくもここまで練習したものであるとも言う。このことばを聞いた時には、さすがにわたしも、うれしかった。

こんなふうにして、一音ずつ、また一語ずつ、一文章ずつと、しだいに、長いことばや文章のほうへ、たんねんに、その練習を続けていくのである。そうすると、自分でできるのではないは別として、ドイツの人々の語っていることばの品定めが、少しずつできるようになってくる。やはり、ブロック夫人の言うとおりである。ベルリンの人たちとでも、必ずしも、美しいドイツ語を話す人だけとはかぎらない。なかには、美しくない方言を話す人たちも見受けられる。しかし、教養のある人々は、おおかたは、美しい、また、正しいドイツ語を語っている。

しばらくの後、わたしはスイスのチューリッヒへ行った。ここで専門の勉強の合い間に、ある日曜日のこと、わたしはチューリッヒの山の手、バッケンホーフ街にある、ベスタロッ

チューリッヒ

スイス北東部の

工業都市。

ベスタロッチャー

Johann Heinrich

rich Festschrift

1871-1872

スイスの教育家。

孤児教育・小

学校教育に、一生

を捧げた。

チーの記念館を尋ねた。記念館の入り口は、広間になっていた。その片すみに分厚い一冊の署名帳が置かれてある。わたしは、まず、この署名帳に署名した。

署名帳の置いてある所のわきに、ベスタロッチャーの生涯しやうがに関するたくさんの絵はがきや、書物を売っている所がある。六十歳を過ぎたと思われる老婦人が、ここを守っている。みやげ物にもなると思って、わたしはこの老婦人から、ベスタロッチャーの絵はがきと書物とを、たくさんに買い求めた。



ベスタロッチャー コンラッド・ドロップ

求め終わった時に、この老婦人はわたしに、ベスタロッチャーのご研究にいらっしゃったのですねと聞くので、いやそうではない、機械工学の勉強に来ているのですと答えると、では、いかがでしょうか、わたしがベスタロッチャーの生涯についてお話しする、お許しをいただければ、ぜひお願いしたいものですと答えると、それではと行って、老婦人は、いま求めたみやげ物を、わたしの手から自分の手に移し、その絵はがきの一つ一つについて、ベスタロッチャーの生涯を詳しく語っていくのであ

る。

その語ることはを聞いて、わたしは、これはすばらしいドイツ語であると思った。なんと
いう美しいドイツ語であるかと思った。なによりもまず、rの発音である。この発音が、い
かにも美しい。それは、今までに聞いたどの人の発音よりも、はるかに美しいrの発音であ
る。リッパなものであると思って、わたしは感嘆した。よく見ると、この老婦人は、そのこ
とばが美しいばかりではない。その目がまた美しい。語る口元が美しい。顔の形、からだの
こなし、これらの全体が美しい。美しい顔に、いきいきとした目を輝かせて、玉をころぼす
ようなことばで、教育の聖者ベスタロッターの生涯を語ってくれるのである。

やがてこの老婦人に別れて、わたしは階上にあるベスタロッターの記念品の数々を見た。

見終えてそのまま、この記念館を去った。

数日の後、チャーリットを引き揚げようと思って荷物を整理していた時に、わたしは、ベ
スタロッターの記念館に、求めたみやげ物を忘れてきたことに気づいた。わたしは、ふたた
び記念館の老婦人を尋ねた。

老婦人はわたしを見るやいなや、心から、よかった、よかったと、美しい声で続けざまに
言う。そして、わきの小包を取って、それをわたしに渡しながら、忘れていたあなたのみや
げ物は、きょうにでも日本に送ろうかと思って、このように小包にしておきましたと言うの

である。見れば敢重に作った小包の上に、わたしの日本のアドレスが書いてある。これは、
署名帳から拾ったものと語る。

わたしは、この小包を受けながら、その労と親切とを謝した。そして、いくらかの金をポ
ケットから取り出して、これを老婦人の手に渡そうとした。ところが老婦人は、わたしの差
し出した金を、どうしても受け取ろうとしない。わたしは西洋に来て、はじめてこのような
経験に出会った。これだけのご親切に報いたい、わたしのささやかな志を、受けてはいただ
けないものでしょうかと言えば、この老婦人は、ここはベスタロッターの記念館ですと言
う。ベスタロッターの記念館では、そのようなご心配は、少しもいりませんと言う。わたしは手
をひっこめ、金を自分のポケットに収めて、この記念館を去った。

ベスタロッターの死後百年あまり、ベスタロッターの精神は、今、この老婦人の心の中に
生きている。この心が、この老婦人を、かくも美しくしているのだと思った。結論がある
は早すぎるかと思っただけでも、きっと、美しい老婦人のこの心から、美しいことばが出て
来るのであろうと思った。

新出漢字 18 バッケンホーフ街。

主要語句 16 教養 18 品定め 19 工字 ものごし 20 こなし

美しいことば